

「献血校内実施」

学園祭での献血実施を毎年行っています！

コロナ禍でも、血液需要は変わりません。ですが、外出自粛が求められ、そもそも献血センターに行く人が減ってしまったり、大学の学園祭が中止になり献血してくれる若者が減ったりし、血液センターに必要な血液が集まらないという実情があります。それを聞き、2020年の本校学園祭（9月25日実施）では、校内生徒と高3保護者のみの来場に制限されていましたが、献血実施を決定しました。東京都赤十字血液センター立川事業所のスタッフとの入念な打ち合わせを経て、教室を献血ルームにし、ソーシャルディスタンスを保ち、安全に献血出来る開場作りを心がけました。

当日は、在校生と保護者の協力をいただき、大盛況のうちに終わることが出来ました。献血は16歳からしか出来ないで、中1～高1の半数は献血は出来ませんが、校内にポスターを貼ったり、チラシを配ったりすることで、大きくなったらやってもらえるように促しています。今回は、みんなの献血キャンペーンの乃木坂46の実寸看板をお借りしたので、多くの生徒が足を止めてくれました。

今年も学園祭での献血を実施する予定で、目下打ち合わせ中です！



「絵本の点訳」

創部以来継続して点字を打っています！

八王子学園八王子中高のボランティア部では、創部以来、点字の学習に取り組んでいます。現在は、絵本の点訳をしています。点訳したものは、ニッポン放送を通じて筑波大附属視覚特別支援学校の図書館へ寄付しています。

毎週月曜日に、点字の先生と盲導犬スージーが来校し、点字を打ったものを確認していただいています。点字は、すべてカナで書くので（漢字がない）、分ち書き（文節などに分けて点字を打つこと）が難しい箇所などは、先生に聞きながら打ちます。普通の点字用紙ではなく、タックペーパーというシール状のシートに点字を打ち、絵本本体に貼っていきます。これは、視覚障害を持つ方とそうでない方が共に読めるようにしたやり方で、実際に来てくださっている点字の先生がお子様絵本を読み聞かせるときに、目が見えるお子様には絵を見せてあげつつ、点字が付いたら読み聞かせることが出来る良いなという意見をヒントにした点訳の方法です。一文字でも間違えると、打ち直しになるので、緊張の中、打っています。

新入生は、数か月間は点字の基礎を学んでいきますが、夏休み前には本番のタックペーパーに点字を打ち始めていきます。タックペーパーは硬いので、点字を打つときに力が必要で、軽く腱鞘炎気味になります。でも、1冊が完成すると達成感も大きいです。

これまでに、点訳した本は35冊以上あります。コロナ禍で、今まで出来ていた施設訪問が出来なくなり、その時間を、点字の時間にあてたりしています。

これからの展望としては、学校の近くに都立八王子盲学校へも点訳絵本を寄付していきたいと考えています。また、点訳が難しく敬遠していた、縦書きの絵本や、分量の多い絵本などにも挑戦していきたいと思っています。



点字をタックペーパー（シールシート）に打った後に、再度、点字があるか確認し、確認できたものから、絵本に貼り付けます。集中力が必要な作業です。

今まで寄付した絵本は35冊以上！



点字の先生と一緒に来るのが盲導犬スージーちゃん。点訳をしているときはとっても大人しくしてお礼口さんです！



「点字ブロックへの理解促進」

～八王子盲学校との連携～

八王子盲学校とは、いままでも交流を持っており、おとしはフロアバレーボールというパラスポーツの大会に共同で参加させてもらいました。新型コロナの影響で交流は減ってしまいましたが、7月には、盲学校の生徒会のみなさんと、Zoomを使って交流をする予定です。

在学生1800名というマンモス校の本校は、生徒の登校の際に、周辺の方々にご迷惑をおかけしており、特に八王子盲学校や特別支援学校などが多い地域なので、理解を深めていくことが必須です。ボランティア部として、点字ブロックの意味や、視覚障害を持つ方々が街でどんなことで困るかなどを、多くの人に理解してもらうために、動画を作成することにしました。実際に、Zoomで盲学校の生徒がどんなときに困るのか、インタビューをして、その内容も盛り込みます。街では、歩きスマホ・ながらスマホの姿をよく見かけます。ホームなどで、接触してしまい、ひやとした経験をした方も多いため、少しでも、その危険性を実感し、歩きスマホをなくしていきけるような社会を作れるようにしたいです。今後は、校内だけでなく、ポスターなどを描いたりしていきたいと思っています。

掲示中のポスター→



「医療施設への動画」

絵本を読んだ動画を送付

コロナ以前は、学校のすぐ裏にある「島田療育センターはちおうじ」へ通い、病院の待合室で子どもたちと折り紙をしたり遊んだりするボランティアを行っていました。しかしながら、コロナ禍で病院へ訪問が出来ない今、動画を作成しました。折り紙の折り方動画なども作成中です。

今の1年生も2年生も、実際に訪問をしたことがないので、早くコロナが落ち着いて、実際に子どもたちと触れ合えて、ボランティアが出来る日が来てほしいです。

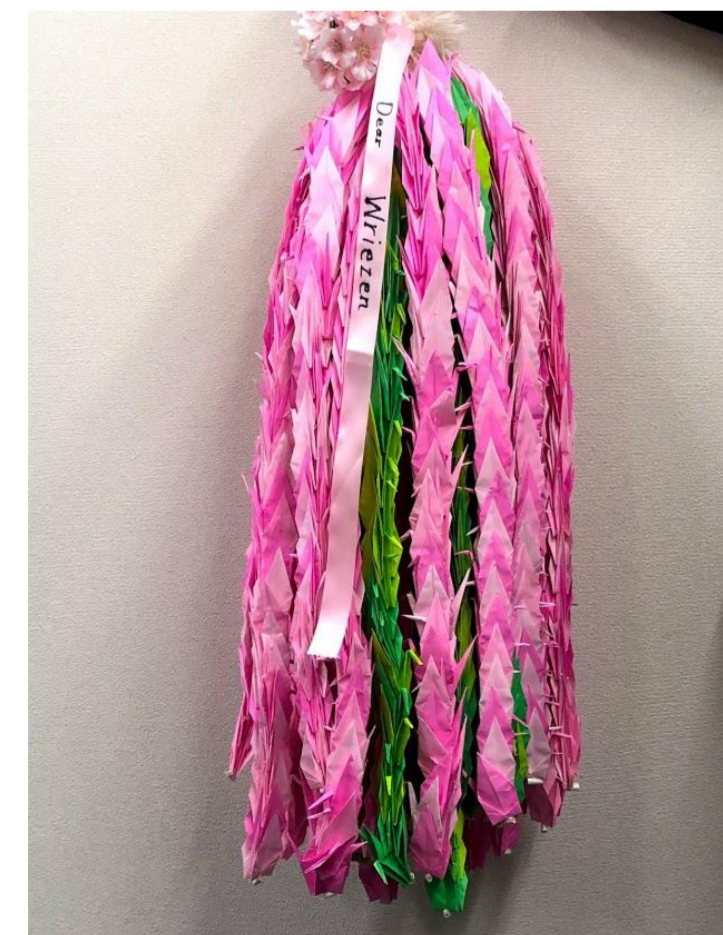
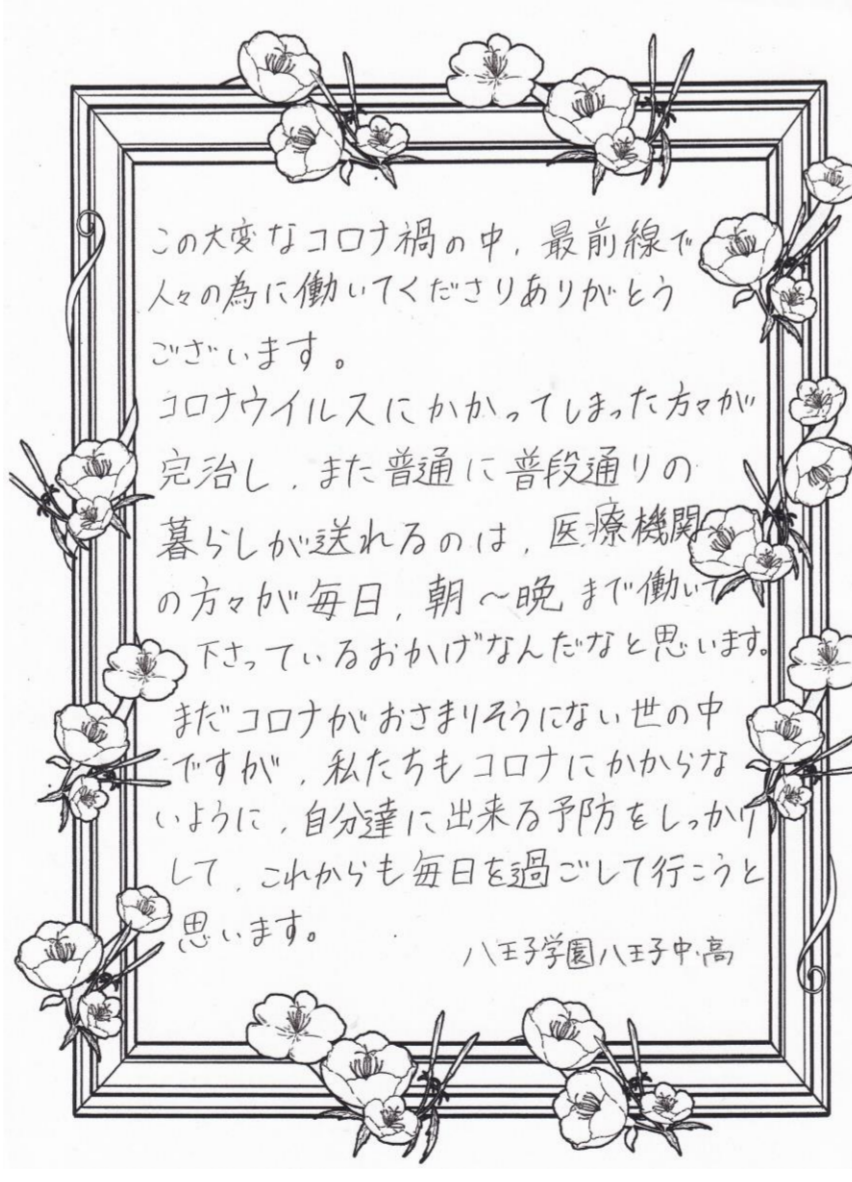


医療従事者に向けて感謝

八王子出身で戦後直後にドイツ・ヴリーツェンでチフス・コレラの感染症治療に従事した肥沼信次氏という医師がいます。八王子出身ということで、以前から肥沼氏を後世に伝えるという活動を行っています。以前はドイツ・ヴリーツェン市との交流なども行っていましたが、今年は制限もあり、小規模になりましたが、ドイツの肥沼医師の墓前に手向けするために千羽鶴を校内で作成し、ドイツに送りました。

また、肥沼医師の意志を継ぎ、「Dr.肥沼の偉業を後世に伝える会」の方たちのリードのもと、新型コロナウイルスのために身を削ってお仕事をされている医療従事者への感謝を込めて、お手紙を書きました。これにお菓子を添えて、八王子市内の5つのコロナ対策病棟を持つ病院にお送りしました。

昔も今も、伝染病の脅威にさらされながらも、医療に従事される方には、感謝と敬意があふれます。



市内の病院にお送りしたお手紙

本校生徒で作った折千羽鶴。ドイツのヴリーツェン市長(写真)のもとに届け、命日に合わせて墓前に手向けしていただきました。

「地域清掃」 定期的にお掃除してます！

学校の最寄り駅JR中央線の西八王子駅周辺から学校の周辺までを、月1回ずつ清掃しています。清掃していると、通りがかりの方にお礼を言うてくださったり、また、声をかけてもらったりし、地域との交流も広がります。周辺をきれいにするという行為にとどまらず、地域振興のお役に立てるといことも、地域清掃の良いところですよ。

ちなみに、4月22日は「アースデー」ということで、青少年赤十字東京支部の他校メンバーとも合わせて、4月23日にクリーンキャンペーン実施しました。他校での清掃の感想を聞きながら、ゴミの内容も地域によって異なるものだと知りました。都内の学校では、区の条例なので歩きタバコが禁止されているのでタバコのゴミはほとんど無いのに対して、西八王子駅（JR中央線）近辺では、JTという会社があるということもありますが、未だにタバコのゴミがよく落ちています。コンビニの袋なども落ちていて、いろんな意味で改善が必要であると思いました。



「募金活動」 西八王子駅+学校内

毎年恒例で、10月1日には赤い羽根共同募金を西八王子駅にて、2学期末には学校エントランスで、募金活動を行っています。コロナ禍で、大声を出すことは出来ませんが多くの方に協力いただきました。あしなが学生募金のように街頭募金活動自体がコロナの影響で中止になってしまうケースも有ります。募金活動も、工夫しながら、出来ることを精一杯やっています。



八王子学園八王子高等学校 ボランティア部

東京都八王子市の共学マンモス校で、野球・水泳・陸上・吹奏楽などは全国大会常連校であり、様々な部活動が盛んな学校です。私達ボランティア部も、アクティブ&クリエイティブな活動を実践しています。

コロナに負けず、さまざまなボランティアにチャレンジしています。

高校生ボランティア・アワードへの参加も、毎年恒例になってきました。

いろんな学校のボランティアを知ること、またさらなる活動へと繋げられ、いつもさまざまな刺激をもらっています。

